

## 宝塚市まちづくり協議会代表者交流会（令和2年度・第4回）議事概要

日 時 令和2年11月11日（水）14：00～15：15

場 所 中央公民館 201、202 学習室

出席者 仁川まちづくり協議会 綿 昭人会長  
宝塚市高司小学校区まちづくり協議会 川島 昭会長  
宝塚市良元地区まちづくり協議会 中 義昭会長  
宝塚市光明地域まちづくり協議会 田村 幸雄会長  
宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会 加藤 富三会長  
宝塚市西山まちづくり協議会 久保田 洋一会長  
まちづくり協議会コミュニティ末広 豊田 茂男代表  
宝塚第一小学校区まちづくり協議会 中谷 修会長  
逆瀬台小学校区まちづくり協議会 石谷 清明会長  
宝塚市すみれガ丘小学校区まちづくり協議会 川上 操代表  
宝塚小学校区まちづくり協議会 喜多 毅会長  
売布小学校区まちづくり協議会 笹田 光治会長  
宝塚市美座地域まちづくり協議会 梅村 諭代表  
安倉地区まちづくり協議会 岡本 康夫会長  
宝塚市長尾地区まちづくり協議会 久保田 久男会長  
中山台コミュニティ 畑中 康治会長  
宝塚市山本山手地区まちづくり協議会 北川 和人代表  
宝塚市長尾台小学校区まちづくり協議会 松原 孝彦会長  
市民交流部 きずなづくり室 藤本室長  
市民協働推進課 吉岡課長、岡田係長 他  
宝塚NPOセンター 馬越氏

### 議事概要（要旨）

- 1 宝塚市まちづくり協議会代表者交流会（令和2年度・第3回）議事概要の確認  
各まちづくり協議会代表者により、上記議事概要の確認が行われ、ホームページへの公開が承認された。
- 2 意見交換
  - (1) 地域ごとのまちづくり計画の「具体的な取り組み」を協働で推進するための「対話」の仕組みについて（案）

市民協働推進課から、上記仕組み（案）について資料を用いて説明後、意見交換を行った。

意見交換の概要は以下のとおり。

    - ア 本日説明いただいた仕組み案でいくとスピード感が心配。調整に時間がかかるのではないか。
    - イ すぐに対応できるものはすぐに対応できる形がいい。仕組み案に載せずに済むものはこれまでどおりの方法で、重要なことについては仕組み案に載せるという形がよいと思う。
    - ウ 基本的には仕組み案のとおりでよいと思う。ただ、コロナの影響でこれまでやってきたことの再開の見通しが見えない。気力や体力が無くなってきている人が増えている。基本的に反対はしないが、コロナ禍のこのタイミングで実施は避けた方がよいと思う。

- エ この仕組み案で示されている調整は、庁内の調整だけを行うということか。
- オ (市) : 案件によると考えている。
- カ 重たい案件や多岐にわたるものもある。そういったものはまち協だけでは手に負えないので、逆に言えばお願いしたい。シートに載せて進めていくことはあまり意味がないと考えている。具体的に進めていく推進力が必要であり、スピード感について危惧している。
- キ コロナの状況が随時変化している。取組をやめるのは簡単だが、コロナ対策を最大限実施した上でどう進めるかという知恵を出していかないといけない。
- ク 地域と行政の中での対応について、記録に残して見える化しておくことはよい。地域側と行政側のすり合わせがこれまではできていなかった。見える化しておくことで、難しい問題であっても、次のステップとして新たな解決策を見つけるための資料となる。また、スピード感については、シートを使いながら必要な取組をできるだけ早急にやっていくという形で進めればよいと思う。
- ケ 事務量が増えると具合が悪い。複雑な様式になるとそれを作成するだけでも大変である。
- コ それぞれのまち協で独自の問題がある。問題はそれぞれの地区ごとで違うので、共通のやり方を取るのには難しいとは思いますが、共通のやり方でできれば理想的であるとも思う。
- サ 市民協働推進課は、担当課の調整が終わればもう関わらないのか、それとも、事務局のような形で関わり続けるのか。
- シ (市) : 案件によると考えている。担当課が決まり、直接地域と担当課で話し合いが進む形となれば、市民協働推進課は計画全体の進捗を把握するという点では関わりはあるが、話し合いの場に常に市民協働推進課が出るかどうかは案件によることになる。
- ス 市民協働推進課が議事録を作成するという事は考えているのか。
- セ (市) : 事務局として市民協働推進課が議事録まで作成することは考えていない。
- ソ まちづくり計画の具体的な取り組みの内容以外に色々な問題が出てきた場合、これまでのようにご相談させていただいても大丈夫なのか。
- タ (市) : 本日説明した仕組み案はまちづくり計画を進めるためのものであるが、計画に載っていない問題等については、これまでのようにご相談いただいても大丈夫である。また、地域として共有すべき問題であれば、今後、計画に載せることも考えていただけたらと思う。
- チ PDCAのチェックとアクションについては、どのようなイメージを考えているのか。話し合いの内容を共有しながら、PDCAを回していくイメージか。
- ツ (市) : 具体的には決まっていないが、そのようなイメージである。
- テ 「地域と行政が対話を進め、既実践している取組」と「実践に向けて地域と行政が新たに対話を進めていく取組」のどちらに当てはまるが不明な取組が出てくるのが考えられるので、まずは市民協働推進課に問い合わせる必要があると思う。また、公文書としてやり取りを記録として残すことが大事だと思っている。まち協は公文書をきちんと残そうという形となればとてもいいのではないかと思う。加えて、何か要望書などを担当課に出す際、市民協働推進課にも情報を共有しておくことも大切だと考えている。
- ト 仕組み案のとおりでよいと考えている。議事録は残しておいた方がよいと思う。また、この仕組み案のとおりであれば、新規取組は市民協働推進課を通じてやることになっているが、計画見直しの段階で次長やコンサルタントに入ってもらっていた。コンサルタントが入ってくれたら、コンサルタントが議事録を作ってくれるのでありがたい。
- ナ 全事業は49あり、新規事業は28ある。そのうち、市と関係するのは5つのみである。また、前回は、県道に関わるものも市から根回ししてもらい、その回

- 答を市からいただいた。今後もそのようにしていただけたらと希望する。加えて、計画の取組について、まち協の中でランク付けをして市に伝えていく必要があるのかなと考えている。
- ニ 市民協働推進課が調整に入ることになりやすくなるし、市民協働推進課に聞けば色々分かるようになる。会長変更となっても引き継ぎしやすくなる。いつからこの仕組みを始めていくのか。
- ヌ (市)：本日のまちづくり協議会代表者交流会、そして、今後の職員説明会及び審議会で意見を聴き、年明けに仕組み案の方針をお示しできたらと考えている。
- ネ 複数のまち協共同で進める案件もこれからは出てくると思う。その場合は連名でシートを作成する形となるのか。
- ノ (市)：複数のまち協連名でシートを作ることも考えられると思う。
- ハ 継続としている取組でも新規の課題が出てくるものもあると思う。新規と継続の中間的な話も出てくると思うが、その辺りは相談しながら進めていくということではいいか。
- ヒ (市)：対話の流れについては、「あくまで原則であり、地域と行政お互いの合意があれば進めやすい方を選択する」と資料に記載しているとおおり、話し合いながら適切な流れで進めていけたらと思う。
- フ 担当課との対話を行う際、市の就業時間外でも対応をしていただけるのか。
- ヘ (市)：基本的には就業時間内で対応をお願いできたらと思う。
- ホ 自治会と行政が直接やり取りしている案件があるが、どのように整理をさせてもらったらいいか。
- マ (市)：自治会の案件が今回の計画で挙がっていたら、まちづくり協議会として挙げていただきたい。もし自治会が独自で動いている案件がある場合は、毎年計画を見直す段階でまちづくり計画に掲載するかの確認を行っていただけたらと思う。
- ミ 今は無くても自治会から新たに挙がってくる案件ある。今後はそれらについてもまちづくり協議会を通してするという事か。
- ム (市)：それがまちづくり協議会全体に関わることであればまちづくり協議会にご相談いただけたらと思うが、自治会の中で完結する案件であれば自治会からご相談いただけたらと考えている。
- メ (市)：先ほど議事録は作らないと言ったが、対話シートとしてどのような話があったのかについては記録に残す。
- モ 既に実践している取組についてもすべて記録を残してはどうか。また、既に実施している取組であっても、実践内容のさらなる充実に向けて新たに市との対話の場が必要となる取組については、新規の取組と同様の対話の流れになると仕組み案ではなっているので、誤解のないようにしなければならない。
- ヤ (市)：行政と既に対話しているかどうかというところで流れを分けている。既に対話を進めている既存の取組についても記録を取っていくという点については、毎回記録を取る必要があるものもあれば、毎年確認するだけで済むものもあるため、計画の中身を一緒に精査していく中でこの点については考えていけたらと思う。
- ユ これはいつから実施するのか。早くしてほしい。
- ヨ (市)：本格実施は来年度を想定しているが、初めて実施するものなので、できれば年明けに仮の案を提示し、皆さまにテストいただくことも必要だと考えている。まちづくり協議会代表者交流会、職員、審議会など色々な意見を聴きながら仕組み案を作っていきたい。ご協力のほどよろしくお願ひします。

## (2) Zoom 会議について

お試し Zoom 会議で Zoom を利用した感想を述べてもらった上で、各まちづくり協議会での

Zoomの活用状況などについて意見交換を行った。

感想及び意見交換の概要は以下のとおり。

- ア 11名が参加された。都合が悪かった方もいる中でかなりの割合の方が参加され、関心の高さが表れている。関心が高いということは、各会長は悩まれているということだと思う。また、まち協の実体験に基づく資料が配布され、とても参考になりありがたい。
- イ 今回、初めてリモート会議をした。ホスト側でやる方法はまだ分からないので困っている。
- ウ 課題としては、実際に地域でリモート会議を行った場合、どれだけの方が使えるのかという点。また、ネット環境がちゃんと整うのかという点。加えて、短時間の会議であれば無料でできるが、長時間で有料アカウントを取る必要が出てくると、会議費用だけでかなりのお金がかかってしまう。
- エ PCにアプリを入れようとしたができなかったため、スマホに入れていたアプリで参加した。その際、マナーモードにしている音が出なかった。改めて参加し直したら、その後は自分の映像が表示されない状態となっており、表示方法が分からなかった。今回の実施で、作成した資料を画面に映して会議に参加している方に見てもらえることができるということが分かった。
- オ PCで参加したが、画面はPCの方が、画面が大きく見やすいと思う。照明が暗い方もかなりいたため、部屋の照明は明るくした方がよいと感じた。また、背景を工夫されている方もいて面白いと感じた。また、Wi-Fi環境はあった方がよいと思う。また、PCもタブレットもスマホも持っていない方はどうすればよいかという課題が出てくると思う。皆さん同じ準備ができる形とした方がよい。
- カ 慣れるまで相当時間がかかる。今でも1回やるごとに新しいことが出てくるような状況である。スマートフォンの方だと、容量が大きくなると通信速度が遅くなるため、それを嫌われる方が多いため、会議室を用いた会議の実施も避けることはできない。
- キ 説明や講義を行う際は非常に適していると感じた。ただ、議論や討論はフェイストゥフェイスが向いていると思う。
- ク リモート会議3回目であった。1回目と比べ、操作も慣れ、話もしやすくなった。進行がスムーズにいくかはホストのスキルにかかっている。
- ケ 初めてリモート会議に参加した。どういう設備が必要か知りたいと感じた。
- コ 息子や孫とPCでやり取りをしているので違和感はなかった。また、部屋の明るさなど、工夫は必要だなという実感を持った。ただ、議論を行う際は、フェイストゥフェイスでやるのが一番かと思う。議論となると人の顔の雰囲気が一番大事だと思う。

### 3 市民協働推進課からのお知らせ

以下(1)について、資料を用いるなどして周知があった。

#### (1) 市民活動促進支援事業について

- 補助金助成金事業一覧完成のお知らせ
- みんなのまちづくり協議会ページの仕様変更のお知らせ

### 4 その他

特になし

### 5 今後の日程

次回日時：令和2年(2020年)12月9日(水)14:00~15:00

場 所：中央公民館 203-204 学習室